

介護職員初任者研修カリキュラム

事業者名 社会福新法人恩賜財団神奈川県同胞援護会

研修事業の名称 神奈川県同胞援護会介護職員初任者研修（通学）

1 職務の理解（ 6 時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①多様なサービスの理解	3 時間	<p>< 講義内容 ></p> <p>介護という職業について、介護保険制度下の居宅サービス及び施設サービスの内容を中心に、その他の介護保険外サービス（福祉・医療サービス等）について概説する。</p> <p>< 演習内容 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義を踏まえ、施設の紹介映像（視聴覚教材）を利用して理解を深める。 ・介護、福祉、医療施設の種類を一覧表にまとめる。受講生の自宅近郊にある施設は、各施設の種類のいずれに分類されるかを調べて一覧表に書き加える。
②介護職の仕事内容や働く現場の理解	2 時間	<p>< 講義内容 ></p> <p>居宅及び施設における介護職の具体的な仕事内容、サービスを提供する現場の状況、ケアプランから始まる介護サービス業務の流れを解説する。チームアプローチ・他職種との連携、地域の社会資源との連携について概説する。</p> <p>< 演習内容 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれ受講生の介護体験を披露し合い、互いの「介護観」に対する理解を深める。 ・実際の介護体験を中心に、これから学んでいく研修課程全体の各研修科目内容がどのように関連して必要になるかを、グループごとに図を作成してまとめる。
	1 時間	施設見学
合計	6 時間	
2 介護における尊厳の保持・自立支援（ 9 時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①人権と尊厳を支える介護	5 時間	<p>< 講義内容 ></p> <p>利用者の自立と自律、相互依存と共生、ノーマライゼーション、ICF、QOL、虐待防止・身体拘束禁止、個人の権利を守る制度などの概念について概説する。利用者の尊厳のある生き方と介護との関連を概説する。</p> <p>< 演習内容 ></p> <p>虐待、身体拘束、プライバシー侵害、利用者の尊厳を損なう介護職員の言動などの具体例を示し、その背景にある状況や介護者の心理についてグループディスカッションを行い各々レポートにまとめる。</p>

②自立に向けた介護	4 時間	<p><講義内容></p> <p>介護における自立・自律支援、残存能力の活用、個人のニーズと生きがい及び介護予防の考え方について、テキストの事例を通して解説する。</p>
合計	9 時間	

3 介護の基本 (6 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護職の役割、専門性と多職種との連携	1.5 時間	<p><講義内容></p> <p>訪問介護と施設サービスとの違いなど介護環境の特徴の理解、介護の専門性を概説する。</p> <p>介護に関わる職種（異なる専門性を持つ多職種の理解、介護支援専門員、サービス提供責任者、看護師等とチームとなり利用者を支える意味、互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供、チームケアにおける役割分担）について講義する。</p> <p><演習内容></p> <p>事例紹介の中で、看護師、栄養士、理学療法士等が果たす役割を受講生が列挙した後に、介護職に求められる専門性の特質について討議する。</p>
②介護職の職業倫理	1.5 時間	<p><講義内容></p> <p>職業倫理について、専門職の倫理の意義、介護の倫理（介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等）、介護職としての社会的責任、プライバシーの保護・尊重に関して概説する。</p> <p><演習内容></p> <p>職業倫理に関わる講師の体験例を紹介した後に、受講生が各々の自分の体験による倫理観の変化について省察して文章化する。</p>
③介護における安全の確保とリスクマネジメント	1.5 時間	<p><講義内容></p> <p>介護における安全の確保、リスクマネジメント全般について概説する。事故に至った経緯の報告（家族への報告、市町村への報告等）、情報の共有、感染対策について講義する</p>
④介護職の安全	1.5 時間	<p><講義内容></p> <p>介護職自身の心身の健康管理について、ストレスマネジメント、腰痛の予防に関する知識について解説する。</p> <p><演習内容></p> <p>講師の実演に基づき、手洗い、うがいの方法を全員でシミュレーションする。</p>
合計	6 時間	

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（ 9 時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護保険制度	3 時間	<p>< 講義内容 ></p> <p>介護保険法制度の動向（予防重視型システムへの転換，地域包括支援センターの設置，地域包括ケアシステムの推進）、制度を支える財源、組織・団体の機能と役割、及び介護保険制度の仕組み全般についてそのポイントを概説する。</p> <p>< 演習内容 ></p> <p>制度に関わる基本的な用語について練習問題を解いて知識の確認をする。</p>
②医療との連携とリハビリテーション	4 時間	<p>< 講義内容 ></p> <p>医療行為と介護、訪問看護、施設における看護と介護の役割・連携、リハビリテーションの理念を解説する。また、介護現場においてリハに携わるスタッフの役割を解説する。</p> <p>< 演習内容 ></p> <p>医行為であるか問われる具体例を示し、ディスカッションを通してその判断基準を示す。</p>
③障害福祉制度およびその他制度	2 時間	<p>< 講義内容 ></p> <p>障害者福祉制度の理念、障害者自立支援制度の仕組み（申請・支給までの流れ）の基礎的理解、成年後見制度や個人情報保護法と介護業務との関わりについて概説する。</p>
合計	9 時間	

5 介護におけるコミュニケーション技術（ 6 時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護におけるコミュニケーション	3 時間	<p><講義内容> 介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割について、ケア（配慮）、傾聴、共感の概念を含めて解説する。コミュニケーション技法、道具を用いたコミュニケーションについて概説する。利用者・家族とのコミュニケーションの実際、利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際についても解説する。</p> <p><演習内容> コミュニケーション技法の基本について、実演やロールプレイを通して学習する</p>
②介護におけるチームのコミュニケーション	3 時間	<p><講義内容> 記録における情報の共有化（介護における観察・記録の重要性、介護に関する記録の種類、個別援助計画書、ヒヤリハット報告など、5W1Hの意義、ケアカンファレンスの重要性を解説する。</p> <p><演習内容> DVD の介護場面を見て「観察」「記録」を実際に行う。</p>
合計	6 時間	
6 老化の理解（ 6 時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①老化に伴うこころとからだの変化と日常	3 時間	<p><講義内容> 老化に伴う心身の機能変化（日常生活への影響について、咀嚼機能の低下その他心身機能の変化）を中心に解説する。</p> <p><演習内容> 加齢に伴って起こる様々な変化と症状を受講生全員で洗い出す。加齢とともに起きるこころとからだの変化の一覧表作りを行い、理解を深める。</p>
②高齢者と健康	3 時間	<p><講義内容> 高齢者のかかりやすい疾病と生活上の留意点（骨折、筋力低下、循環器障害と対策、うつ病等の精神疾患、誤嚥性肺炎など）について解説する。</p>
合計	6 時間	

7 認知症の理解(6 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①認知症を取り巻く状況	1.5 時間	<講義内容> 認知症ケアの理念(パーソンセンタードケアなど)の視点、基本的な関わり方を解説する。
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1.5 時間	<講義内容> 認知症の概念、物忘れとの違い、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理(脱水・便秘・低栄養・低運動・口腔ケア、薬物療法等)の方法について解説する。
③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	1.5 時間	<講義内容> 認知症による生活障害、心理・行動の特徴、心理状態、不適切なケアについて、適切なケアの具体的な方法、コミュニケーションの方法、認知症の進行に合わせたケアの方法を解説する。 <演習内容> 様々な認知症の症状に対し、どのようなケアが考えられるかを討議する。
④家族への支援	1.5 時間	<講義内容> 認知症の受容過程での援助、介護負担の軽減(レスパイトケア)について解説する。 <演習内容> 事例を提示して、どのようなレスパイトケアの方法があるか討議する。
合計	6 時間	
8 障害の理解(3 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①障害の基礎的理解	1 時間	<講義内容> 障害の概念とICF(ICF の分類と医学的分類、ICF の考え方)、ノーマライゼーションについて解説する。
②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1 時間	<講義内容> 身体障害、知的障害、精神障害、その他の心身の機能障害について解説する。 <演習内容> 実際の症例についてICF を用いて情報を整理し、活動・参加への具体的なアプローチ方法を立案する。
③家族の心理、かかわり支援の理解	1 時間	<講義内容> 利用者の家族への支援方法、介護負担の軽減について解説する。
合計	3 時間	

9 こころとからだのしくみと生活支援技術（ 75 時間）			
	項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
基本知識の学習	①介護の基本的な考え方	4 時間	<p><講義内容> ICF に基づく介護、法的根拠に基づく介護について解説する。</p> <p><演習内容> グループに分かれて、生活障害という視点から、ICF に基づいて心身機能と活動・参加との関連を図に示した上で介護の役割を挙げる。</p>
	②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3 時間	<p><講義内容> 介護の実践に必要な人間のこころのしくみの基礎的理解について。学習と記憶、感情と意欲、自己概念と生きがい、こころとからだの密接な関係性について解説する。</p> <p><演習内容> 個人が生きることと社会参加との関係から高齢者の心身の健康についてグループワークで討議をする。</p>
	③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	3 時間	<p><講義内容> 介護に関連する人体の各部名称・機能に関する解剖・生理学的な基礎知識全般を解説する。</p> <p><演習内容> 体の構造を映像で見ながら、部位の名称や機能について受講生に質問・応答しながら理解を深める。バイタルサインの測り方を演習する。</p>
生活支援技術の講義・演習	④生活と家事	3.5 時間	<p><講義内容> 生活と家事の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援について、生活の再構築という視点から解説する。</p> <p><演習内容> グループ毎に家事全般に含まれる活動を列挙して1 枚の図にまとめる。</p>
	⑤快適な居住環境整備と介護	3.5 時間	<p><講義内容> 高齢者、障害者の日常生活に適合する居住環境整備、家庭内に多い事故、バリアフリー、住宅改修、福祉用具について解説する。</p> <p><演習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・快適な居住環境を整備するための知識や福祉用具を、映像や資料で紹介する。 ・様々な福祉用具に触れ、実際に使用して感想を述べる。

<p>⑥整容に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>7 時間</p>	<p><講義内容> 身体状況、季節、場面に合わせた衣服の選択、着脱の方法、身じたく、整容、洗面、口腔ケアの方法について実演・解説する。 <演習内容> クラスをグループに分け、練習ではペアを組む。身体状況に合わせた衣服の選択、着脱、身支度、整容（洗面、整髪、爪の手入れ、化粧、ひげ剃り、口腔ケア）の方法の模範演技、反復練習、習得度確認を行う。 ・「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる。</p>
<p>⑦移動・移乗に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>7 時間</p>	<p><講義内容> 移動の意義。安全安楽な移動・移乗、体位変換、姿勢保持の方法、ボディメカニクスの基本原理、車いすの操作方法、車いすへの移乗方法、杖歩行の支援や、歩行補助具の使用方法など実演をまじえて解説する。 <演習内容> クラスをグループに分けて実施。 ・ベッド上での体位交換、起居動作、ポータブルトイレや車椅子への移乗方法、歩行介助（片マヒの人、杖歩行の人の歩行及び階段の昇降等、視覚障害者の歩行介助）車椅子の基本操作方法、移動用具、ボディメカニクスの応用、重心・重力の置き方、残存能力の活用の仕方などについて講師が模範演技、反復練習、習得度確認を行う。 ・屋外で車椅子操作の実践練習 ・「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる。</p>
<p>⑧食事に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>8 時間</p>	<p><講義内容> 食事の意義、食事と健康、栄養素とその働き、栄養素と食品の関係、献立の立て方、食事介護の方法、嚥下のメカニズム、誤嚥防止、福祉用具の活用方法、介護食などについて解説し、実技指導を行なう。 <演習内容> グループ単位で実施。 ・受講生各自に紙コップ、スプーン、手ぬぐい、ハンドタオル、歯ブラシ、食材等をいくつか持参させて、実践的な食事介護の練習を行う。 ・様々な介護食材、トロミ材を用意し、製作、試食する。 ・食事介助の基本方法を講師が模範演技し、反復練習する。特に介護者の立ち位置、利用者の姿勢をポイントとする。 ・映像を利用して嚥下のメカニズムを学習し、利用者の状況に合わせた食事介助の方法を講師が模範演技する。受講生はそれに倣って繰り返し練習する。 実践練習を通して習得度確認を行う。 ・「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる。</p>

<p>⑨入浴・清潔保持に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>7 時間</p>	<p><講義内容> 入浴の介護方法、清潔保持の目的、手浴・足浴・洗髪、陰部洗浄、清拭方法等について解説し、実技指導を行なう。</p> <p><演習内容> グループ単位で実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入浴、清潔保持に必要なさまざまな入浴用具、整容用具を紹介する。 ・家庭用の浴槽を準備し、入浴介助の手順、安全確認、福祉用具の使用法、利用者への接し方の実践練習を行なう ・全身清拭、手浴、足浴、洗髪方法、ケリーパッドの作り方、清拭時の体の支え方を講師が模範演技し、実践練習を行う。目、鼻腔、耳、爪の手入れの方法を学ぶ。 ・受講生に洗髪モデルを選任し、実際に洗髪する。 ・ベッド上での陰部洗浄の方法を学ぶ。羞恥心、尊厳を守る環境整備、声かけ、気遣いの方法を学ぶ。 ・受講生は繰り返し練習し、練習を通して習得度を確認する。 ・「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる。
<p>⑩排泄に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>7 時間</p>	<p><講義内容> おむつ交換など排泄介護の方法、ポータブルトイレなど排泄用具の使用法、プライバシーや心理的負担への配慮、尊厳の保持、トイレ介助などについて解説し、実技指導を行なう。</p> <p><演習内容> グループ単位で実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義前に予め紙パンツを全員に配布し、排泄体験をさせる。排泄環境整備の方法、排泄用具を紹介する。 ・おむつやパッドの吸収ポリマーの能力、交換方法を学ぶ。 ・ベッドからポータブルトイレへの移乗方法を学ぶ。 ・ポータブルトイレの構造、使用法を学ぶ。 ・ベッド上でのおむつ交換の方法、差し込み便器、尿器の使用法、陰部の清潔保持、洗浄方法を学ぶ。 ・男性と女性の違いによる排せつ介助のコツを学ぶ。 ・羞恥心、尊厳を守る環境整備、声かけ、気遣いの方法を学ぶ。 ・受講生は繰り返し練習し、練習を通して習得度を確認する。 ・「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる。

	⑪睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	3 時間	<p><講義内容></p> <p>睡眠に関する基礎知識、環境整備と用具の活用方法、ベッドメイキング、褥瘡予防について解説する。</p> <p><演習内容></p> <p>グループ単位で実施。快適な睡眠環境の作り方、睡眠用具の紹介、活用方法を紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベッドの構造、機能、操作方法を学ぶ。安楽な姿勢・褥瘡予防を実際に行なう。 ・ベッドマット、枕、クッション、ベッド柵の使用法を学ぶ。 ・ベッドメイキング方法を学ぶ。 ・受講生は繰り返し練習し、練習を通して習得度を確認する。 ・「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる。
	⑫死にゆく人に関したこころとからだのしくみと終末期介護	5 時間	<p><講義内容></p> <p>人の生死、寿命について考える。終末期ケア、高齢者が死にいたるプロセス、利用者ニーズに寄り添う看取りの要件、死に向き合う高齢者の心理、看取りにおける介護職員の基本的態度、臨終が近づいたときの徴候と介護、苦痛を和らげる方法について解説する。</p> <p><演習内容></p> <p>講師が示す事例・体験及び映画を鑑賞して、看取りの意義についてグループで討議する。受講生各自が「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる。</p>
生活支援技術演習	⑬介護過程の基礎的理 解	7 時間	<p><講義内容></p> <p>様々な介護事例を通して介護の目的、計画に沿ったサービス提供の重要性、具体的な展開方法、介護過程とチームアプローチなどについて解説する。</p> <p><演習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な事例を提示して介護計画（個別支援計画）を立案、作成する。 ・「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる。
	⑭総合生活支援技術演習	7 時間	<p><演習内容></p> <p>利用者の具体的な事例を課題として、学習した介護実技を実践的に学ぶ。事例は2 事例を用意し、グループ単位で課題に取り組み、介護計画の立案、実技を通して介護手順の習得と技術習得レベルの確認、介護後の見直しと今後の取り組みに向けた検討を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例の実技等の実施手順は別紙「総合生活支援技術演習計画書」の通り。 ・「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる。
	合計	75 時間	

10 振り返り (4時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①振り返り	2時間	<p><講義内容></p> <p>今まで学習してきたことを科目ごとに振り返り、総復習を行なう。講師との質疑応答を行なって、理解不十分な点の見直しと学習を行い、更に習得を深めていくよう指導する。特に身だしなみ、言葉遣い、態度について振り返る。介護職が身につけるべき知識や技術の体系を示す。</p> <p><演習内容></p> <p>グループディスカッションを通して今後のキャリア形成について見通しを持つ。</p>
②就業への備えと研修修了後における継続的な研修	2時間	今後介護職を続けて上で継続的に学ぶべきこと、研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における事例を紹介する。
合計	4時間	
全カリキュラム合計時間	130時間	

※規定時間数以上のカリキュラムを組んでもかまわない。

※本研修で独自に追加した科目には、科目名の前に「追加」と表示すること。